

## ICTを活用した教育体制構築に関する実証事業 報告書

<b>1. 学校名</b>
ホーチミン日本人学校
<b>2. テーマ</b>
ICTを駆使した学習機会の保障
<b>3. 取組の概要</b>
(※報告書の内容を要約し、200～400字程度で記載してください。)
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国内に待機している教員が、授業動画を作成しGoogleクラスルームやZoomを使って教室の子供達へ授業を実施</li> <li>○ タブレット端末の導入により、すべての学年がタブレット端末を使った授業を開始、授業だけでなく、校外学習や社会見学時に活用</li> <li>○ 調べ学習の報告会や発表、宿泊を伴う行事の報告会にもタブレット端末を活用。</li> <li>○ eラーニングを実施することで、家庭での復習ができるようになり、コロナ禍で登校ができなくなっても自主的な学習は可能となっている。</li> </ul>
<b>4. 取組の背景・目的</b>
(※非常時でも途切れない「学びの保障」の在り方と関連づけて記述してください。)
<p><b>目的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン授業で培った教員の指導力をもとに、情報機器を駆使し、一人一人の子供の学びの速度に応じた授業を構築していくことを目的とする。</li> <li>・タブレット端末に配信される問題を使って毎日の朝学習等で知識の定着を図る。</li> </ul> <p><b>背景</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ベトナムがコロナ禍により、一斉休校にしたのが2月1日。まず、考えるのか、電話連絡での安否確認・状況把握と課題の電話連絡。すぐに解除されるだろうと全員が思っていた。</li> <li>○ 次に実施したのは家庭訪問、バスで登校している子供たちの家庭は広範囲であったが、課題を持ち、45分程度の出前授業ということで2週間かけて全員の家庭を回る。</li> <li>○ まだ、解除されないという事で、インター校が実施しているオンライン授業というものを知る。</li> <li>○ 最初はホームページを活用して、ユーチューブで動画を配信するが、授業というよりねずみ講的なものになり、教育効果については疑問</li> <li>○ 春休み、新しい教員が着任できなくても、児童生徒にある程度の学習ができる事は何かを考え、動画づくりと作った動画をGoogleクラスルームを活用して視聴できる時間割を作る。</li> <li>○ 教師と子供たちの双方向の意見交換の場を考えて、はじめの会と終わりの会はZoomによる総和宇高の取り組みを実施した。</li> <li>○ この体制が五カ月続く、宿題は、毎週木曜日に課題配布回収バスで受け渡し、この部分がアナログであったが、家庭学習としては一番有効な手段となっていた。</li> <li>○ 8月より思考でeラーニングを実施する。これにより、家庭でもパソコンを使えば、今学習したことの復習や発展問題も取り組めて、学校の学習と家庭での学習がオンラインでできるようになった。</li> </ul>

- 9月から本格的な導入を図り、タブレット端末が整備されるまでは、家庭でのパソコン—中心に復習させることができた。
- 10月よりまず中学部を中心にタブレット端末が整備されたので、数学の授業を中心に授業で e—ラーニングを導入
- 3学期は全員にタブレット端末が行き届いたので、社会見学、校外学習、などもふまえて積極的に活用していくようになった。
- ※ 現在は、また、コロナ禍により学校での対面授業ができない状況になっても、すぐにオンラインでの授業を開始できるようになった。また、課題に関してもe—ラーニングの導入により、家庭でする内容にも指導できるようになった。
- ※ コロナ禍等だけでなく様々な障がいに見舞われても、子供たちの学びを止めることなく、継続的に学習していけるシステムが構築された。

## 5. 取組の実施日程

日程	取組内容
4月～7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインによる授業構築を準備</li> <li>・オンラインでの授業を実施</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末の導入</li> <li>・ライズ社と教育コンテンツの選択と導入（e—ラーニングの導入）</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本からのオンライン授業、ズームでの双方向の授業を児童生徒が1人1台で視聴</li> <li>・朝学習として、教育コンテンツを使って毎日の学習の習慣化を図る。</li> <li>・授業参観で日本からの動画配信授業とズームでのやり取りを保護者に見てもらう。</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本からのオンライン授業、ズームでの双方向の授業を児童生徒が1人1台で視聴</li> <li>・朝学習として、教育コンテンツを使って毎日の学習の習慣化を図る。</li> <li>・修学旅行・自然学校先からの動画配信</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本からのオンライン授業、ズームでの双方向の授業を児童生徒が1人1台で視聴</li> <li>・朝学習として、教育コンテンツを使って毎日の学習の習慣化を図る。</li> <li>・自然学校先からの動画配信</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外学習等でタブレット端末を持って活動</li> <li>・日本からのオンライン授業、ズームでの双方向の授業を児童生徒が1人1台で視聴</li> <li>・朝学習として、教育コンテンツを使って毎日の学習の習慣化を図る。</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本からのオンライン授業、ズームでの双方向の授業を児童生徒が1人1台で視聴</li> <li>・朝学習として、教育コンテンツを使って毎日の学習の習慣化を図る。</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果検証として、保護者や子供たちへのアンケート結果から効果を検証する。</li> <li>・指導案等を集め成果と課題を検証する。</li> <li>・家庭での e—ラーニング実施数による効果検証を行う</li> </ul>

## 6. 具体的な取組内容（※詳細に記載し、付属資料があれば添付してください。）

- 8月より思考でeラーニングを実施する。これにより、家庭でもパソコンを使えば、今学習したことの復習や発展問題も取り組めて、学校の学習と家庭での学習がオンラインでできるようになった。
  - 9月から本格的な導入を図り、タブレット端末が整備されるまでは、家庭でのパソコン—中心に復習させることができた。
  - 10月よりまず中学部を中心にタブレット端末が整備されたので、数学の授業を中心に授業で eラーニングを導入
  - 3学期は全員にタブレット端末が行き届いたので、社会見学、校外学習、などもふまえて積極的に活用していくようになった。
- ※ 今後、コロナ禍により学校での対面授業ができない状況になっても、すぐにオンラインでの授業を開始できるようになった。また、課題に関しても eラーニングの導入により、家庭でする内容にも指導できるようになった。
- ※ コロナ禍等だけでなく様々な障がいに見舞われても、子供たちの学びを止めることなく、継続的に学習しているシステムが構築された。

### 小学部 1年生の取り組み



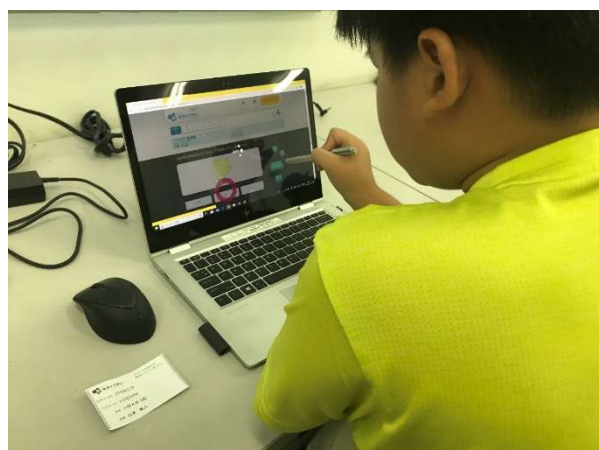
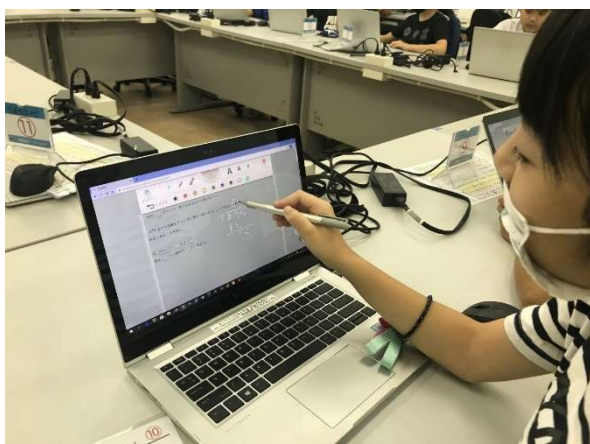
- ※ 1年生が校外学習の動植物園での活動です。班で1台という活動より一人一台の活動となり、子供たちの意欲が高まりました。また、事後の指導においてもタブレットで撮影した写真を基に感想を書いたり、友だちに説明したりすることができ、大変有意義な活動となりました。

### 3年生 高島屋への社会見学



- ※写真撮影だけでなく、付属のペンを使い、忘れないようにメモをする姿がありました。
- 教師が指導する以上の活動を子供たちが実践し、素晴らしい成果がえられました。

## 小学部 4年生 パソコンルームで eラーニングの授業



※ 教育コンテンツとして、導入した eラーニング は、各教科のまとめや確認の時間に活用しています。中学部では、過去の入試問題などにもチャレンジできるので、学校での活動のほか家庭でも活用している子が多くいます。

また、各自が学んだ家庭での学習履歴を担任が確認できるので、進捗状況を常に把握することができた。また、質問も文章でできるので、リアルタイムで課題を解消することができた。

### 7. 取組の成果

(※どのような課題をどのように解決したかや、生徒・児童への効果等について詳細に記載し、成果物があれば添付してください。また成果がどのような観点で他の学校の参考になるかも記載してください。)

- 運営委員会で報告を行い、タブレット端末を使った学習について、委員長をはじめ多くの委員から継続的に進めていくようにというご示唆を受けた。
- 学校評価の保護者アンケート「学校は ICT 機器を有効に活用して学習活動を推進しているか」という問いに対して、そう思う。ややそう思う。という肯定的な解答をした保護者の数が76パーセントであり、コロナ禍の中ではあったが、タブレット等を活用した教育活動の手ごたえを感じた。
- 学習参観等で、すべての学年がタブレット端末を使つての学習発表形式の授業を取り入れた。
- 子供たちのタブレット等の操作は、教師が期待した以上の使い方をし、従来行っていた言葉だけの発表と比較すると、発表する側、聞く側の両者とも関心・意欲が高まり、対話的で深い学びができるようになった。

### 8. 今後の課題・展望

(※次年度以降への継続性及び発展性に言及してください。)

- 子供たちはタブレット端末の操作にすぐ慣れ、活動の幅が広がるとともに、簡単にロックを外して、ゲーム—をダウンロードしたり、自分好きなコンテンツを落とし込んだりしていた。すべての端末に厳しいロックをかけて、子供たちの操作に制限をかけるために、多くの時間と労力を割くことになった。

- 本校の予算に合わせて購入したタブレットが、写真をパワーポイントに映せないという事が後から判明し、クラウドに挙げるなどの解決操作に多くの時間が割かれることになった。アイパッドを買えばよかったという反省です。
- 家庭でもできるeラーニングは大変良い教育コンテンツであるにもかかわらず、家庭でも実施しているクラスに差が生じている。ほぼ全員が家庭で実施しているクラスもあれば一桁の学級もある。具体的な研修を通して、全員に周知していく。
- 今後も引き続きタブレット端末やパソコンを使った授業を構築していくが、あくまで対面での授業のサブコンテンツとしての活用を考えていきたい。
- 400台以上のタブレット端末を管理し、また、必要な時にすぐ使えるようにしておくには、充電設備や格納庫の整備も大切になってくる。周辺機器の整備も重要な課題となってくる。
- 来年度においては、授業でのまとめの時間、単元のまとめの時間を中心にeラーニングを活用。家庭での宿題としてもeラーニングを活用していけるようにしていく。自主的な学習のとして家庭でeラーニングを行う割合を80パーセントまで引き上げたい。
- 現在活用しているタブレット端末においては継続的に活用していく。また、校外学習等の引継ぎとして、タブレットの活用方法も次の学年にしっかり伝えて、定着化を図っていきたい。

## 9. 所感

- コロナ禍によって、教育環境の大幅な変革をもたらされた。10年かかる内容を10か月で常態化させた。ハード面は整備されたがソフト面の充実も図らなければならない。
- 優れた指導力や授業力を持った教師は、対面でこそ、児童生徒とのやり取り、感触、手ごたえ、顔色を見ながら会話のキャッチボールの中から子供たちの興味や関心を生み出し、探求心や課題解決能力を育成してきた。
- 優れた指導力のある教師は、それなりのオンラインの授業を作ることはできるが、対面には遠く及ばない。子供たちの学びの質が低下することは確実である。
- 本校でも1学期間、着任できない中学部の教科について、(数学・社会・理科)はすべてグーグルクラスルームでの録画の授業とズームによる対面授業を実施しましたが、保護者は対面授業での子供たちの学力の定着に不安を抱かれていました。
- 本校では9月1か月間 塾とタイアップして、塾の講師による対面補講授業を実施し、オンラインでの授業の補完をしました。数学・理科・社会科を教えられる人間が塾の講師しかいなかったからです。
- まだまだ保護者にはオンライン授業のみには大いに不安と不満を持っていることがわかりました。
- 各都道府県から派遣される優秀な教員も誰一人、オンラインでの授業をどのようにすればいいのか、また、どんな授業が子供たちにわかりやすいのか、対面授業との違いはどこかなどの研修を全く積んでいない中での授業となっているからだと思います。
- 今後オンラインでの授業づくりという研修も必要になってくると思います。

※提出いただいた報告書や成果物は、本事業の取組成果として公開する予定です。また、記載いただいた内容は文部科学省や海外子女教育振興財団のその他の資料にも使わせていただく可能性があります。

※記入欄は適宜拡張してください。